



校長室だより

令和6年度

6月7日

NO. 14

当たり前前の主体であることの大切さ



秦梨の自然「ササユリ」「ツバメ」「ピオニー」



1~3年生「交通教室」



少し前、教育委員会から「猿、注意」の連絡が回ってきました。町中に猿が現れたそうです。ある学校にとっては珍しいことで、先生たちが戦闘モードで出かけていったと笑いながら話していました。一方、駐在さんによると、こちらの方では「動物との交通事故」の通報がたまに入ります。また先日は学校の中で、野生のアナグマの力尽きた姿が発見されました。市内でも地域ごとに、当たり前前の出来事は違いがあります。

秦梨では、猿も当たり前のように学区に暮らし、ニュースにもなりません。子ツバメが、長い巣の暮らしを終え、仲間と追いかけてつっこをしながら、飛べるようになった楽しさを満喫している景色も当たり前です。けれど、見る側からすれば当たり前の姿も、やっている方には当たり前のことではありません。学校で毎年行われる活動や授業も、それを行っている子供たちにとっては、一つ一つ自分だけの貴重な経験となります。

四日には一年生から三年生が参加して秦梨交通教室が行われました。外から見るといつもの光景も、子供たちの体験の様子を見ていると、それぞれの子が何に意識を持って、何に注意をして取り組んでいるのかがよく分かります。自転車はまだ不安な一年生は、上手に自転車に乗れるように一生懸命練習しています。また、停止線などでちゃんと止まることに気を配っている子、交通ルールを特に意識している子など様々です。こうした中で、子供にとって一番力になるのは、なにより自分で主体的にやりたいことを考えて取り組むことです。「自分事」として考えるとき、そこに深い学びが生まれます。

今年も玄関のササユリが花を咲かせました。この景色が、いつまでも当たり前であるためには、当たり前前の大切さを感じ、当たり前前を守り、自ら行動しようとする気持ちが必要となります。

- 「交通教室」では、河合の駐在の竹下さんが来て、いろいろ教えてくれました。朝も見守ってくれています。
- 今年から始まった、さえずりさんによる読み聞かせ、5日には、山岡さん、河合さん、ソムアートさん、麻場さんが来てくださり、子供たちに読み聞かせをしてくださいました。